

目次

P1	重監房資料館 開館 10 周年	P3	様々なお客様をお迎えしております。
P1-2	2023 年度企画展「蘇るハンセン病患者とその家族」報告に替えて	P4	2023 年度 来館者統計
P3	7 月 21 日に第 29 回重監房資料館運営委員会が開催されました。	P4	お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)
P3	2023 年度館内燻蒸・消毒報告	P4	お知らせ
P3	2023 年度ウォーキングツアー実施報告	P4	ご利用案内・アクセス

重監房資料館 開館10周年

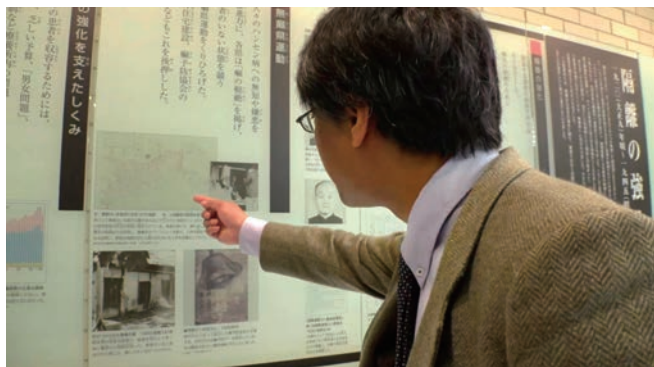
重監房資料館は、2024（令和6）年4月30日をもちまして開館10周年を迎えることができました。この節目の日を迎えることができたのは、ハンセン病問題を中心に、我が国にある人権問題について学ぼうとする、またその解決に真摯に取り組む皆さまからの多大なるご支援、ご教示の賜物であり、改めまして深く感謝と御礼を申し上げます。

資料館スタッフは、この節目の日、重監房資料館の開館に尽力された故榎雄二さん、故藤田三四郎さんの遺志を改めて確認し、それを引き継ぐことを誓います。そして今後は、ハンセン病問題について、知らない、関心がない方々への情報発信にも心がけて、1年1年の活動を大切に積み上げながら、次の5年、10年につなげていけるよう誠心誠意努力を重ねて参ります。今後も格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

重監房資料館

2023年度企画展「蘇るハンセン病患者とその家族」報告に替えて
木村真三さんとの出会いからDVD「仙太郎おじさん！ 貴方は確かにそこにいた」制作へ

2023年企画展、そして啓発DVD制作に多大な協力をいただいた、ハンセン病患者遺族・木村真三さんと初めてお会いしたのは2017年8月6日である。著書や新聞記事を読み、NHKドキュメンタリーを観て、この人に一度会いたいと願っていて、機会を得て、当時の職場であった国立ハンセン病資料館にお招きしたのである。東日本大震災に起因する原発事故の風評被害、被災者差別も、ハンセン病問題と通底する人権問題であるし、放射線衛生学者の立場から毅然とした態度で仕事を続ける木村さんから多くを学べると期待しながらその日を迎えた。



展示室の愛媛県の地図を指さす木村真三さん

丸一日かけてハンセン病資料館と多磨全生園をご案内したのだが、熱心に見学する木村さんに、私の説明も熱をおびた。自宅近くの店を予約し、待望した意見交換の手はずを整え、店まで私の車に木村さんと同乗するなりゆきになった。東村山市から1時間ほど。助手席の木村さんと対話を始めた。

ある刹那「展示室の愛媛県の地図…」と木村さんが切り出した。第一展示室の患者強制収容の説明パネル。「癩患者の指導」(昭和12年)からの引用地図は偶然にも木村さんの故郷愛媛県で、確かに木村さんはその前に立ち、長いこと地図をのぞき込んでいた。「地図の好藤村……。僕の故郷ですが、『⑤』という数字。患者の数を示しているのですか。あの数字の中に僕の親族がいるかもしれない。「えっ？」耳を疑った。この人は何を言い出すのだろう。「ちょっと待ってください。ご家族にハンセン病患者がいたのですか?」。「そうです」と木村さんが応えた。鳥肌が立った。

店に到着、杯を重ねながらも、木村さんの話しは続いた。「仏壇に戒名のない、ただ木村仙太郎とだけ書かれた粗末な位牌があった。子ども心にこの人誰やろうと思っていた。「その後、ばあちゃんの遺品を整理していたら、その名前が差出人の葉書が一枚あって、それが療養所からのものだった」。「それで、癩

療養所からの葉書があるってことは、うちから癩患者がでたの
か、って父親に聴いたら、そうだと「言った」等々。

じっと話を聴いていた私は、「その方を探してみますか？」
と切り出した。「え、判るんですか？」と木村さん。「葉書は残っ
ていますか。療養所の名前は覚えていますか？」とたたみかけ
ると、「残念ながら葉書は処分されてしまって、でも、どこか島
からの葉書だったと記憶しています」と言う。「なるほど。島の
療養所ですか。心当たりをあたってみましょう」ということにな
った。

木村さんの仙太郎さん探しに協力する約束をしたことで、そ
の後、頻りに木村さんと連絡をとるようになった。その過程で、
仙太郎さんが、木村さんの祖父の兄で、木村さんからみれば大
伯父さんにあたり、木村家の当主であったことなどを教えても
らった。木村さんも仙太郎さんについての調査を始めたのであ
る。私の方とは言えば、仙太郎さんが愛媛の方なので、大島青
松園に収容されたのだらうと、半ば決めつけて照会をかけてみ
た。ところが該当者はいなかった。「大島ではないとすると、ど
こだろう。まさか島だといっても、奄美や沖縄ということでは
ないだろうから長島愛生園だろうか？」、今度は半信半疑で問
合わせてみた。すると思いがけず「該当しそうな方がいらっしゃ
います」と回答が得られた。あとは遺族にしかアクセスできな
い領域となる。

木村さんに長島愛生園からの回答について伝えると「本当で
すか」と電話口での声はがずんだ。木村さんは仕事で愛媛県に
滞在していたが、居ても立っても居られず、その場で愛生園訪
問を決めた。とにかく行動力の人なのだ。



長島愛生園を遺族として電撃訪問した木村さんは、納骨堂に
眠る大伯父・仙太郎さんと対面、蔵骨器にわずかに残った遺骨
を引き取り、一両日中に故郷の木村家の墓所に納めた。その報
告を聴いて、「仙太郎さん、78年ぶりに故郷に還ったのですねえ」
と応えた。

私としては、ここで一件落着のつもりでいた。ところがそう
はならなかった。木村さんはこの大伯父仙太郎帰還の物語を何
か記録に残したいと思うようになっていた。福島での原発事故
に関するドキュメンタリーを製作したNHKのプロデューサー
などにも話をしたが、「ハンセン病問題は難しいからねえ」と
色よい返事をもらえなかったそうで、少し悔しそうだった。

その時たまたま重監房資料館では、当時の主任学芸員北原誠
によって、重監房収監者の遺族にインタビューをする映像製作
の企画があがっていた。その作品は、開館5周年記念で2019年
10月にリリースした啓発DVD「遺族ふたり」で、「知られては
ならない秘密～患者の子と呼ばれて～」として公開したが、こ

の時点ではドイツに住む遺族が日本に帰国した機会を捉えての、
いわゆる一発撮りであるリスクも抱えていた。

そこで、ハンセン病患者の家族裁判も進んでいる状況も踏ま
えれば、時宜を捉えたハンセン病患者と遺族の物語なのだから、
木村真三さんの願いもいれて、私が担当して、木村さんが仙太
郎さんを家族として取り戻す、ドキュメンタリー「仙太郎おじ
さん！ 貴方は確かにそこにいた～展示資料に親族をみつめて」
も併走させることにした。学芸員レポート「遺族ふたり」は、2
作を制作する計画に改めたのである。

この度、2023年企画展にあわせて、増補版「同～蘇るハンセ
ン病患者とその家族～」をリリースした。旧版では仙太郎さん
が長島愛生園に収容されていた1939年から1941年の2年間の
調査が行き届かなかった。日程の制約もあったのだが、仙太郎
さんの愛生園での暮らしぶり、そして死因を知るには、愛生園
所蔵資料への遺族による開示請求が必要だったからである。木
村さんは、入園後2年を待たずに亡くなった仙太郎さんが自死
を選択していたのであれば辛いと、開示請求には迷いがあつた。
しかし、それを振り切り、仙太郎さんの入園時の問診記録、検
診記録、診察録、毎日のバイタル記録、剖検願、死亡診断書、
死亡届そして仙太郎さんの解剖録の提供をうけた。

その様子を漏れなく映像に記録し、遺族に開示された木村仙
太郎さんに関する資料が長島愛生園歴史館で、遺族の希望で企
画展として公開されるまでを収録した増補編「蘇るハン
セン病患者とその家族」は2023年5月に公開したのである。
2023年の重監房資料館の企画展では、開示された木村仙太郎
さんに関する資料を大伸ばしにし、その内容が判読できるように
したパネルで展示、会場でのDVD鑑賞もできるようにした。



現在、木村真三さんは、医学者として、専門家の協力を得て、
解剖録のさらなる検討を進めている。開示資料を改めて比較検
討し、入所者の証言なども併せて整理していく過程で、ハンセ
ン病を発病して自宅で30年療養していた仙太郎さんが、長島愛
生園に収容後わずか2年で亡くなった要因などへの接近が可能に
なっている。重監房資料館では、開館10周年を迎える節目
に、木村さんのさらなる協力を得て「仙太郎おじさん！」の完
結編制作を予定している。それにより「特別病室（重監房）」が
運用時期に並行した「無癩県運動」や戦時中のハンセン病療養
所の経営実態をより深く掘り下げることができると考えている。
「遺族ふたり」プロジェクトは終わっていない。

（黒尾和久・国立重監房資料館部長）

*なお啓発DVD「遺族ふたり」シリーズは、重監房資料館で、
団体に限り無料貸出をしています。ホームページないし電話で
重監房資料館までお問い合わせください。

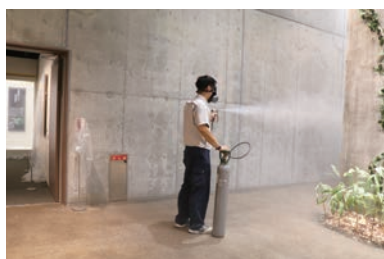
7月21日に第29回重監房資料館運営委員会が開催されました。

コロナ禍の間に中止されていた重監房資料館運営委員会が7月21日に久々に開催されました。(通算第29回) 委員の方々やオブザーバー、内田館長、スタッフを含めた合計17名参加の中で、委員会が行われなかった期間の報告や、今年度の残りの事業予定の承認を頂くことができました。委員会のみならず、開館、各種イベント、外部との関わりなど、コロナ以前の普段の資料館運用状態に、日々、戻していく所存であります。



第29回重監房資料館運営委員会 (Web映像より)

2023年度館内燻蒸・消毒報告



投薬開始

9月7日～11日にかけて、全館燻蒸、消毒を行いました。このうち4日間は臨時休館をさせて頂き、今回も見学の予定をされていた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。少ないスタッフ人数ながらも、燻蒸担当業者の方にもお手伝い頂き、展示物の移動、解体、養生を終わらせ、一斉退去、全館密閉、投薬、排気、計測、効果確認という一連の作業を経て、館内の復旧作業を終え、無事、9月12日に開館を再開させて頂きました。燻蒸のみならず、日ごろの清掃、整理、温湿度管理も怠らず、資料保管に万全を尽くしてまいります。



殺虫処理効果確認

2023年度ウォーキングツアー実施報告



湯畑にて

本年度で6回目の開催となる、ボランティアガイドの案内による草津町から重監房資料館までのハンセン病の歴史ゆかりの史跡や施設等を徒歩で巡るウォーキングツアー「初めてのハンセン病史-もう一つの草津温泉-」は、今年は、晩夏から秋までの8月26日、9月16日、9月30日、10月7日の涼しい時期にずらして開催をしました。合計20名の方々にご参加頂き、天候にも恵まれ、今回も、草津町から当館までのハンセン病に縁深い温泉地の歴史を巡る、学びの場をご提供できたと考えております。

様々なお客様をお迎えしております。

企画展「蘇るハンセン病患者とその家族 -木村仙太郎の生存記録：長島愛生園1939-1941-」が開催される中、各方面からの来館訪問、外部行事開催



山本一太群馬県知事来館 (10/13)

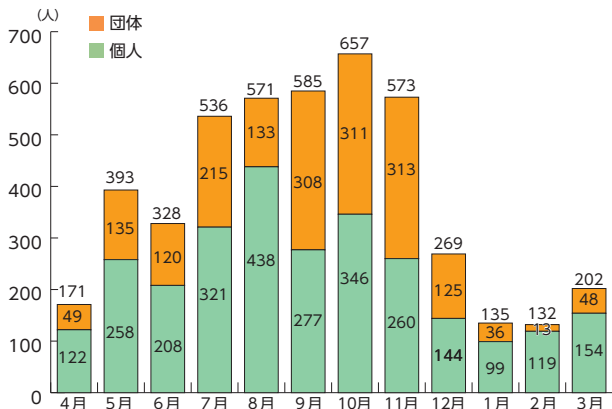


海外医療関係者来館 (10/11)

が続いております。群馬県知事、国会議員、群馬県議員、海外医療関係者、元大学教授、福祉団体研修など、展示を中心とした普及啓発活動を通して、今後も各方面の関心を招致する資料館の責務を果たしていきます。

(香川進司)

2023 年度来館者統計



2023 年度入館者数

延べ **4,552 人**
 1 日平均 **15.0 人**
 開館以来延べ **51,652 人**

ホームページアクセス数

2023 年度 **32,638 回**
 開館以来延べ **439,399 回**

お知らせ

重監房資料館の見学時間および見学予約が変わりましたので、お知らせします。

■通常期 (4/26 ~ 11/14) :

開館時間が30分間延び、9:30 ~ 16:30(最終入館16:00)に変わります。団体は要予約(5名様以上)です。

ご不明の点は、重監房資料館までお問合せください。

■冬期 (11/15 ~ 4/25) :

予約専用期間だったのが、個人の見学は予約不要に、団体のみが要予約(5名様以上)、に変わります。開館時間は、30分間延び、10:00 ~ 16:00(最終入館15:30)に変わります。

お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎まず草津の町からの遠さに驚かされた。気軽にこられる距離ではないので、ある意味よほど気持ちのある人でないと来ないと思います。患者の皆さんの高齢化もあり、なかったことにされてしまうかとも思ってしまいます。(東京都、73歳・女、主婦)
- ◎私自身も難病に罹患していて、医療や患者への対応について日頃考えることが多く、とても勉強になった。精神科の問題など、日本は先進国とは言えない社会状況が続いていると考える。高齢化で今後さらに患者が増える。こうした多くの方がより幸せに過ごすにはどうしたらいいのか。回復者の闘いに学んで次世代によりよい未来を渡したい。(長野市)
- ◎すこしかなしかったけど、きてよかったです。また、くさつりょこうのついでに、きたいです。ありがとうございました。(埼玉県、8歳・女、小学生)
- ◎ハンセン病に感染してからの差別、偏見や隔離等は信じられないです。けれど、私でも家族や友人でも感染が怖いので、近寄らないと思います。私は33年前に交通事故で高次脳機能障害で、障害者ですが、勉強して介護福祉士になれたので、もっと感染症を学び、体力をつけて続けていきます!!(神奈川県、51歳・男、会社員)
- ◎精神医療に携わる人間としてこういった歴史から学ぶことは多い。こういう歴史を繰り返さないでいたい。(東京都、26歳・男、研修医)
- ◎途中から舗装されていない道になったり、バスターミナルからの道を歩くと、下水処理施設と火葬場があったりと、この施設がどのような位置にあるのかがわかりました。インターネットで見るとよりも実際に訪れ、証言を聞くほうが何倍も学ぶことが多かったです。(神奈川県、53歳・女、教員)

ご利用案内・アクセス

■開館時間■ 4/26-11/14 (フルオープン期間) : 9:30 ~ 16:30

11/15-4/25 (冬期予約期間) : 10:00 ~ 16:00 (団体、個人とも完全予約制)

■休館日■ 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

■入館料■ 無料

■交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分

車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分

(草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の未舗装路をお入りください。)

重監房資料館「くりう」第 24 号【季刊】

発行日：2024 (令和 6) 年 4 月 30 日 / 企画・編集・発行 重監房資料館 / URL : <https://www.nhdm.jp/sjpm/>
 〒 377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL : 0279-88-1550 FAX : 0279-88-1553